稲　尾　岳

【所　在　地】肝属郡錦江町，南大隅町，肝付町
【種　　別】国指定天然記念物
【指定年月日】昭和 42 年７月６日

稲尾岳は大隅半島の南部，田代，佐多，内之浦の３町にまたがる標高 959m の山岳である。近年日本では少なくなった照葉樹の原生林が残っていることから，その学術的価値により天然記念物に指定された。

本地域の南斜面は，かっては山麓から標高 300m 付近まではスダシイやタブノキが優占する森林，700m 付近まではイスノキやウラジロガシ林，700m から上部はアカガシ林となり，次第にモミが入り，山頂一帯はイヌツゲやアセビなどの低木林となっていた。このように海岸付近から山頂まで照葉樹の多様な原生林が連続して連なり，見事な垂直分布を見せる森林は他に例がない貴重なものであった。

しかし，その稲尾岳も７合目付近まで伐採の手が入り，多くがスギの人工林にかわってしまったため，国は山頂部を中心に学術参考保護林や自然環境保全地域に指定した。さらに平成４（1992）年には保護区域を拡大して森林生態系保護区域に指定，平成６（1994）年には従来の３倍の 1,000ha あまりの保全地域を指定して保護に努めている。最近，山頂付近のモミが枯れつつあるのは，酸性雨の影響と考えられる。